

2024(令和6年)年度の計画

事業所・委員会名 さんさんまりんこども園・支援センター

【2023年度計画・目標】

① 【職員の資質向上及び人材育成】

①キャリアアップ研修の受講は昨年度に続き計画的に行う。また、管理職による人材育成計画に基づき3園における人事交流や外部研修等により計画的・全体的な人材育成を図る。②「保育ドキュメンテーション」の質的向上を図るため、非常勤講師も含めた実践交流を充実させる。③引き続き広島県乳幼児教育支援センター金岡アドバイザーの指導・助言のもとに保育士個々の力量を高めるとともに保育士集団としての保育・教育へのプライドの醸成を図る。

② 【計画的な保育実践や特色ある活動】

①幼児クラスの年間指導計画を見直すとともに月案や週案への整合性を図るために、全クラスで年度当初に年間のテーマを設定し、運動会・発表会等の行事を含めて一年を通じての大まかな見通しを立てさせ、系統的・継続的な保育・教育の実現を目指す。②引き続き英語活動、リトミック、ねむの木サークルの読み語りをはじめ、高齢者との世代間交流なども含めて楽しく園生活を送れるような特色ある園経営を行っていく。③園内でのプランター等による栽培活動のほか、新しく園外菜園の設置も含めた栽培環境の充実を図り、田植え・稲狩り・芋ほりなどの体験活動や収穫物を利用した食教育を充実させていく。

③ 【保護者との信頼関係の構築】

①自己点検・自己評価を始め、保護者アンケートなどの関係者評価も行いながら、園経営を客観的に評価し改善するとともに、本年度からR4年度反省とR5年度年間計画も含めてHP等で情報の開示を行う。②各保育士が懇談や面談だけでなく、日々の連絡帳や登降園時の連携等で積極的に保護者に対してアプローチを行い、子どもの情報を親と共有していく。③園児の体調不良や怪我等のアクシデントは、即時管理職に報告・連絡・相談・確認を行い、保護者への説明や謝罪を真摯に行うことによって嘘のない保育・教育を行っていく。

④ 【環境構成の充実】

昨年度に引き続き、子ども達の自主性・主体性を培うため、次のような環境構成を行う。①保育士は最大の人的環境であり、子どもとの愛着関係を築くことを第一義とする。そのため「意図的・効果的な言葉かけ」「個々へのかかわり方の工夫」「まなざしの共有」を行う。②物的環境として1階園庭・屋上園庭・保育室・廊下・空きスペース等の活用の工夫や教材・絵本・図鑑等の補充や整備を行う。③時間的環境として子どもが個別や集団でじっくりと取り組める時間を確保する。④社会的環境として、各季節特有の行事や地域でのイベントなど園内外での活動の工夫と積極的な参加を行う。

支援 【学び・支え・親子の力を引き出す場として】

①コロナ禍での利用者の安心と安全を確保しながら利用者同士の交流を充実させ、支えあう人間関係づくりの場になるよう努める。②保育士は支援者として利用者に寄り添い、親子の成長を阻む要因の解決に努め、様々な活動を通して刺激や学び得る機会を作り出し、親子の力を引き出すように働きかけていく。③特色や工夫のあるイベントを開催し、利用者が期待感をもって安心して楽しく参加できる子育て支援センターにしていく。

【2023年度報告・反省】

【職員の資質向上及び人材育成】①キャリアアップ研修においては計画的に進めることができた。まりんこども園はもとより3園における内部研修については年間計画に沿って行うことができた。②保育ドキュメンテーションの質的向上を図るため、園内での研修内容を改善していった。③広島県乳幼児教育支援センター金岡アドバイザーの招聘は日程が合わず行えなかった。

【計画的な保育実践や特色ある活動】①年度当初に年間テーマを設定できたのは2クラスであったが、運動会や発表会等の行事も含め、系統的な保育・教育の実現に努めることはできた。②本年度は体幹教室を新たに設定して、独自の特色を出すとともに子ども達が楽しく園生活を送れるような園経営への改善を行った。③従来の夏野菜づくりとともに、新たに大和町に園外菜園として「さんさんファーム」を開設して田植えと稲狩りを実施し、子ども達の作ったお米を家庭に持ち帰ったり、給食で提供してもらったりと栽培活動と行事や日常の設定保育との連続性を意識した食育を行った。

【保護者との信頼関係の構築】①年度当初に自己点検・自己評価を行ったり、保護者アンケートを1月に実施し、評価・改善を図るとともに、その分析結果や今後の取組等をHPに公表した。②③日常的に保護者との連携を図るとともに、課題や要望を把握し的確に対応することによって保護者との信頼を構築できた。

【環境構成の充実】子ども達個々の発達状況や個性・特性を見極めながら、日常の保育・教育を大切にしながら取り組みを進めることができていく。①人的環境②物的環境③時間的環境④社会的環境の4つの視点を柱として、今後も継続的・計画的に環境構成の充実を図っていく。

＜支援センター＞

【学び・支え・親子の力を引き出す場として】イベントは定員が常に確保でき好評である。普通日の利用者減少はあるが、定期的に利用される方もあり、利用者間の交流や相談活動等については今後も継続して行っていく。

【2024年度目標 取り組み内容】

①	<p>【職員の資質向上及び人材育成】</p> <p>①計画的・継続的なキャリアアップ研修の受講を本年度も行っていくとともに、効果的・実地的な内部研修を行うためワークショップを導入し研修の質的向上を図る。②「保育ドキュメンテーション」の質的向上を図るため、園内での研修内容や研修の持ち方等の改善を行う。③年間保育指導計画の見直しや月案の書式の改善等を継続的に行っていくとともに、広島県乳幼児教育支援センター金岡アドバイザーを招聘して公開保育を行うなど、保育士個々の力量を高め、保育士集団としての保育・教育の質的向上に努める。</p>
②	<p>【計画的な保育実践や特色ある活動】</p> <p>①保育における年間のテーマを各クラス設定することができるようにしていき、運動会・発表会等の行事を含めて一年を通じてテーマに沿った連続的な保育活動ができるよう系統的・継続的な保育・教育の実現を目指す。②体幹教室、英語活動、リトミック、スイミング、ねむの木サークルの読み語りをはじめ、高齢者との世代間交流やバス活動など楽しく園生活を送れるよう特色ある園経営を行っていく。③従来行っている夏野菜のプランター栽培や「さんさんファーム」での田植え・稲刈りのほか、「サンライズ新倉」の協力のもとにさつまいも畑を新たに作って収穫物を利用した食教育を充実させていく。</p>
③	<p>【保護者との信頼関係の構築】</p> <p>①自己点検・自己評価・保護者アンケートを継続的に行ってきた。特に保護者アンケートは1年間の保育実践と園経営に対する実際的な保護者評価と捉えて真摯かつ的確な対応とHPによる公開を行っていく。②園での子どもの様子やエピソードなど連絡帳以外にも機会を捉えて保護者にしっかりと伝えていくことで子どもの情報を保護者と共有し信頼関係を構築していく。③園児の体調不良や怪我等のアクシデントは、即時管理職に報告・連絡・相談・確認を行い、保護者への説明や謝罪を真摯に行うことによって嘘のない保育・教育を行っていく。</p>
④	<p>【環境構成の充実】</p> <p>①保育士は最大の人的環境であり、子どもとの愛着関係を築くことが重要である。そのためには日頃から一人ひとりの子どもをしっかりと見守り、教育的愛情を持って保育にあたらなければならない。特に園児一人ひとりの愛着関係をしっかりと作り上げていくために、大切な「愛のある言葉(k)」「愛のある想い(o)」「愛のある眼差し(m)」の3つの要素を含む愛(i)のあることも園「i.kom」(アイ・ドットコム)をスローガンとして保育士全員が認識して日々の保育・教育を行っていく。②子どもの自立と自主性・主体性を培うための物的環境・時間的環境・社会的環境の整備に努める。(1階園庭・屋上園庭・保育室・廊下・空きスペース等の活用。教材・絵本・図鑑等の補充や整備。個別や集団でじっくりと取り組める時間の確保。季節ごとの行事や地域のイベントなど活動の工夫や参加等)</p>
支援センター	<p>【学び・支え・親子の力を引き出す場として】</p> <p>①利用者同士の交流を充実させ、支えあう人間関係づくりの場になるよう努める。②保育士は支援者として利用者に寄り添い、親子の成長を阻む要因の解決に努め、様々な活動を通して刺激や学び得る機会を作り出すことで、親子の力を引き出すように働きかけていく。③特色や工夫のあるイベントを開催し、利用者が期待感をもって安心して楽しく参加できる子育て支援センターにしていく。</p>